



ごあいさつ

会長 森田 弘

平成13年より始まった「ほたる飛び交う中地区をめざす運動」もはや2年が過ぎ、素晴らしい会に成長してきました。これも多くの皆様のご協力の賜物と大変感謝しております。

総合学習の時間にほたるの由来を調べた児童たちが、むかしの中地区がほたるの名所だったことから名づけられた事を知り、むかしのようにほたるが飛び交う中地区にしたいと学校祭で発表しました。「田んぼのある学校」でこれを実施することになりました。自治会を中心とした多くの地域の方々をはじめ、PTA、学校ボランティアの方々が、夏の暑い時期に、ほたるのビオトープ作りによくの汗を流して協力して下さいました。去年初めてほたるが飛んだときは、とても感動しました。これからも根気強くこの活動を続けていかなければならないと考えております。

中小学校を中心に、中地区の多くの皆様に参加していただき、ほたるを通して中小の児童のみならずと環境の大切さを学び実践して、近い将来巴波川へほたるを飛ばし中地区の巴波川、そしてほたるの橋が、ほたるの名所になれば素晴らしいと思います。

これからもご協力よろしくお祈りいたします。



『ほたるの会の熱』

大塚 幸一

中地区にほたるをよびもどしたいなあという子供たちの夢は、ほたるのビオトープという形で一歩進んだ。しかしそれは単にビオトープという空間が出来ただけにとどまらず、カワニナを採集し、ほたるの幼虫を放流したことで、ついに平成14年5月末、実際にホタルが飛ぶことに及んで大きな感動となって実現したのである。

支えてきたのは、ほたるの会（正式には、ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会）である。発足当初は、ほたるの会では実際にほたるが飛ぶには3年かかると予測していた。

それは、ほたるの生態、ビオトープの整備とのからみで、そうすぐには条件がそろわないとふんでいたからである。

だが、現実のスピードは速かった。平成13年6月～7月にかけては土・日を返上してのビオトープ造成作業が続いた。

そして、ついにポンプアップした水を通水するに至ったのである。同年9月1日にはビオトープの完成を祝って祝賀会も開かれた。振り返ればこの熱気は何だったのだろうか。地域の自治会長さん、PTA会員、学校職員、市教委や農村整備課等々、声をかけると常に60～70人の人が集まってきた。手がけると最後まで見届けたいという気持ちが人を動かしたのだろう。この人の「情」こそが、ほたるの会の原動力である。

平成14年の中地区ほたるを観る会式典には喜びにあふれた顔が並んだ。

このほたるを観る会の実施にあたってはPTA役員を中心に何度も会合がもたれて夜遅くまで打ち合わせを重ねた。

こうした多くの人々の努力の上に中地区のほたるがあります。今後ますますこの活動が充実し、地域の宝として輝きを放ち続けることを願っています。

ほたるの広報紙の発行に寄せて

中小学校長 大熊 久子

今、学校では、その学校ならではの特色ある教育活動を通して、心豊かにたくましく、生きる子供を育成することが求められています。本校においては、平成13年度に家庭・地域及び行政の多方面にわたる協力支援により設立された「田んぼのある学校」の活動を本校独自の教育の中核に位置づけ取り組んでおります。

お蔭様で、手作業による田んぼの稲作活動、水辺のビオトープ活動のどれもが年々充実・発展しています。特に、かつての中地区と深いかかわりを持つ、ほたるのビオトープ活動においては、「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」なる組織が作られました。これは、ほたるの活動を学校のビオトープに留めることなく地域全体に広め、近い将来、巴波川にほたるが飛ぶことを願って立ち上げられたもので、会員数も増えてきています。

昨年開催された「中地区ほたるを見る会」は、初めてほたるを見る喜びと、久しぶりにほたるを見る懐かしさを味わう会ともなりました。

今年、地域の皆様への周知をさらに図り、より多くの人々に、「中地区ほたるを観る会」に来ていただきたいと、広報班がほたるの広報紙を発行することになりました。これを契機に、この会の活動への理解と協力の輪がさらに広がっていったら、こんなうれしいことはありません。

6月6日～8日の「中地区ほたるを観る会」には、ぜひおいでになり、ほたるの舞い飛ぶ姿を存分にお楽しみください。お待ちしております。

ビオトープの思い出

小暮 米作

一昨年、自治会長の研修旅行の時に学校の敷地内にホタルを飼うにはどのくらいの深さの井戸を掘ったら水が出るかと聞かれ、私はホタルを飼うこともビオトープという言葉もこれからはじめてだった。5～6メートル位掘れば出るのではと答えた。私は、ホタルは自然の河川に飛び交う姿を楽しむものと思っていたから、どんな設備をするのか想像もつかなかった。いよいよビオトープ造成の作業の日、自治会内の葬式にぶつかってしまった。学校の仕事は機械を使うのでどうしても自分が出なければならぬし、葬式では自治会長は受付という役目があり、この日は大変迷惑をかけてしまった。

仕事が始まり、機械で穴を掘り始めると太い木の根が出てきたり、元の水防小屋の基礎が出てきたりとなかなか思うように作業は進まなかった。また、杭を入れる段階になり水漏れを防ぐため粘土を塗ることになってから、用意した粘土ではたらくなくなった。大勢の奉仕の皆さんの手を休めるわけにはいかない、さっそく追加の粘土が必要となり、私はトラックで岩舟の井戸屋さんへ・・・あいく留守で粘土は手に入らなかった。どうしてもその日のうちにといわれ、再び何軒かの業者に当たったが、うちでは扱っていないとことわられてしまい結局、最初の業者しか扱っていないことがわかり、それでは本日の仕事は打ち切り、後日粘土が用意されたらと、作業は次回にすることになった。

その他のいろいろなことで作業は苦労しましたが、松本館長さんの助言をはじめ、学校の先生方、地域の皆さんの奉仕作業によって、めずらしい「ほたるの里ビオトープ」が出来上がりました。昔を知る人は、ここまでしなければ、ホタルが生きられない世の中になったのはどうしてだろうと、考えさせられる活動でした。

ビオトープは、いま中小学校の子供たちに楽しみと、うるおいを与えている事を思うと感無量です。

『ほたるの飼育の苦労』

新井 幸男

はじめに、ほたるを飼育しているグループの方々を紹介します。

- 下初田 大出清成さん ○生駒 熊倉忠雄さん
- 上 泉 青木圭一さん ○会長 森田 弘さん
- 前教頭 大塚幸一先生 ○中 小 5年生
- 公民館 松本館長さん ○私 (新井幸男)です。

ほたるを捕獲し産卵箱にミズゴケを入れほたるを放し、交尾して産まれた卵からふ化した幼虫を育て、ビオトープに放流するまで約8ヶ月の過程を、頭や口でわかっている、いざ文章にするには何となく書きにくいものです。

産卵箱のミズゴケやほたるに、毎日<朝夕>約10～15回くらい霧吹きをやり、約30日前後で卵がふ化します。

ふ化した幼虫は、パットの水中にダンゴのように小さく落ち体長が約0.5mmぐらいとかなり小さくゴミと間違えうぐらいます。

その後、2～3日おきに水の交換します。その訳は生まれたほたるの幼虫がカワニナの稚貝を食べるため水が汚れるからです。水を交換する際にゴミと間違えて幼虫も流してしまう失敗を私も何回か経験しました。

真夏の水の管理が一番大変です。日中の気温が30度以上になるので、水温も自然と上がります。水温が28度以上になると、「ほたる」君も暑さに負けて死んでしまいます。

水温の管理には特に注意が必要で、保冷剤を冷凍庫で凍らせてたり、又はペットボトルを同じように凍らせ、それを水槽に入れて水温を上げないように、朝昼夜と交換しました。

9月の中旬になれば、真夏と違い水と氷の交換も少なくなり気持ちの上で楽になりました。

10月からは、水の交換も4～5日に一度になり好きな旅行にも行けるようになりました。

11月から2月までの期間は、管理も楽でした。

3月の下旬に、熊倉さん・慶野先生・前教頭先生・私(新井)と一緒に、ほたるのマニュアル本を作成しました。

今年のほたるの放流式には、源氏ほたるが約700匹放流され、昨年より多くのほたるが飛び交うことを願っております。

『ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会』本部役員

会長	森田 弘	前PTA会長
副会長	増田 博利	自治会連絡協議会長
〃	大熊 久子	中小学校長
〃	松本 旭巧	中公民館長
〃	松井 正弘	中小PTA会長
〃	小川 明	創生期の自治会長
〃	松本 旭巧	創生期の指導者
理事	熊倉 忠雄	儀式・イベント班長
〃	新井 幸男	ほたる飼育班長
〃	田中 佐一	広報活動班長
〃	大出 清成	教育指導班長
〃	小暮 米作	施設班長
〃	古口 昌稔	施設副班長
〃	安良岡 佐市	自治会連副会長兼会計
〃	荒井 静男	自治会連副会長兼監事
〃	小川 浩子	子ども会育成会長
〃	松本 和巳	中小学校PTA副会長
〃	白石 久夫	〃
〃	石原 照代	〃
〃	原友 友美	〃
〃	池羽 友世	〃
〃	青木 環	〃
〃	大塚 幸一	前中小学校教頭
顧問	森田 総一	市議会議員
〃	羽金 勝子	前中小学校長
会計	町田 繁	中小学校教頭
庶務	山道 玲子	中小学校教務主任
ビオトープ係	慶野 八郎	中小学校教員
〃	安塚 豊子	〃
〃	島田 則子	〃
〃	薄井 雅彦	〃
委員	自治会関係・各種団体関係 PTA(平成13年度以後) ボランティア関係	

ほたるを観る会

☆6月6日(金)

- イベント 18:00～19:00
- 式典 19:00～19:40
- 観る会 19:40～21:00

☆6月7日(土)・8日(日)

- 観る会 19:40～21:00



ご家族でお誘い合わせて見に来てください!



おしえてください!

中小では、ほたるの餌になるカワニナのたくさんいる場所を探しています。ご存知の方は、ぜひご一報ください。

☆連絡先☆

中小学校 ☎0285-38-0649 教頭(町田)
中公民館 ☎0285-38-0002 館長(松本)

編集後記

この度の広報紙発行にあたり多くの方々のご協力をいただきありがとうございました。皆様方のおかげで発行の運びとなりました。心から感謝申し上げます。

広報班長 田中佐一
広報班 池澤幸代 須賀和枝
石原昭代 原友美
田波耕太郎